



■作品名 **時を紡ぐ家**
[高知市上町]

■設計者 **西森啓史**

■設計事務所 **(有)西森啓史建築研究所**

・現場代理人／高村 努 ・大工／和田 幸男 ・瓦葺師／村山 廣典、村上 紀宏 ・表具師／上田 博康、上田 博章 ・左官／梶佐古 修慶

◎用途／専用住宅 ◎構造／木造伝統軸組工法 ◎延床面積／185㎡ ■施工者／(有)高村建設 ■建築主／前田芳子

■機械設備設計事務所／(株)掛水環境研究所 ■電気設備設計事務所／東山設備設計事務所 ■竣工年月／平成18年9月



設計趣旨

町屋の風情を感じさせるこの家は、以前手漉和紙をつくっていた工場の商談や事務室に使用していた家屋で、築100年以上(100年から150年)を経ています。「小さく住みたい」ということで2階建ての母屋を現代の生活に適用できるよう改修しました。

計画の主な考え方は

- ①奥行きが深い家であるから中央部が暗く、空気が澁んでいた。その解消策として「越し屋根」を設け、上部から光を取り込み、同時に頂部に集まってくる熱気を抜かす。
 - ②旧家の構造「足固め」や「さし貫き」を使用した伝統の軸組み工法をそのまま取り入れる。
 - ③古い構造体はできるだけ残す。傷んでいるところは取り替えや補修をし、仕口の刻み穴は埋木をする程度に留める。
- 「この家の物語」が継続するために欠けてはならない職人の技術や提案がありました。屋根については村山瓦の「村山さん」。昔の屋根の弱点を補い、風情は残すというのがポイント。

この家には100年位前に消失した「しのぎ棧瓦」(頂部の曲がり角が鋭角の瓦)と「100枚瓦(小さい瓦)」が葺かれていました。

安芸の「アキ寅瓦」が焼いたもので、今回「越し屋根」に使用され

た瓦は「アキ寅瓦」のお孫さんにより焼き直され、鬼瓦は淡路で整形補修、焼き直しが施されています。主屋根の瓦は金型を起こし淡路で新たに製造された「しのぎ棧瓦」であり、「100枚瓦」の屋根はそのまま残しました。

棟の「のし瓦」は以前の「目地積み」の雰囲気を出すため「そりのし」を採用し、雨仕舞いも向上させることができました。

襖、障子、天井の和紙貼は上田薫風堂の「上田さん親子」。和紙のふっくらとした艶を感じさせます。また、左官は「梶左古」さん。

職人の技術の結果として未来への新たな力を得たような気がします。

屋根の吹き抜けを通して、鬱積していたものが解かれ、風の動きと光のようすが一変しました。古いものと新しいものが溶け合い、不思議な調和をしています。

上町は歴史のある町です。最近マンションが建ち並び、町並みの風情はどんどん消えています。

この旧家がしたたかに残り、暮らしの息遣いを留める限り、町並みの美しさが保持されると思います。